

令和4年度

全国学力・学習状況調査 結果分析

《小学校・中学校》

令和4年10月

松阪市教育委員会

目 次

1 調査の概要 …… 1-2

2 調査結果 …… 2-14

(1) 教科に関する調査

①小学校

②中学校

(2) 質問紙調査

①学習への興味・関心等、基本的な生活習慣、学習習慣等、学習活動等

②挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

③地域や社会に関わる活動の状況等

3 成果につながったと考えられる松阪市の取組 …… 15

(1) 基本的な考え方

(2) 松阪市教育委員会の具体的な取組

①「主体的・対話的で深い学び」の創造

②「カリキュラム・マネジメント」の確立

(3) 学校の取組

①「主体的・対話的で深い学び」の創造

②「カリキュラム・マネジメント」の確立

4 調査結果の分析 …… 16-27

(1) 学習への興味・関心等、基本的な生活習慣、学習習慣等、学習活動等に関する取組状況と学力とのクロス分析

(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関する取組状況に関する経年変化分析及び学力とのクロス分析

(3) 学校・家庭・地域の協働体制の構築に向けた取組状況の分析

5 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の取組 …… 28

(1) 松阪市教育委員会の施策の充実

(2) 学校の実践の焦点化

①「主体的・対話的で深い学び」の創造

②「カリキュラム・マネジメント」の確立

*本冊子において、児童生徒質問紙及び学校質問紙の回答の数値は、肯定的な回答の割合を示す。

用語説明

語句	説明
平均正答率	市内小・中学校の平均正答数を百分率で表示。 ○国語、算数・数学、理科の平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。
肯定的な回答	質問紙調査において、例えば「当てはまる。どちらかといえば、当てはまる。どちらかといえば、当てはまらない。当てはまらない」の選択肢がある場合、「当てはまる。どちらかといえば、当てはまる」の回答を示す。

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

松阪市教育委員会

本年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の調査結果や本市における児童生徒の学力の定着状況、生活習慣、学習状況等の分析結果、本市の学力向上の取組、及び今後の取組を以下のとおりまとめる。

I 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 児童生徒一人一人が自らの学習状況を把握し、学習改善や学習意欲の向上につなげる。

(2) 調査問題の在り方

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃は、グローバル化や人工知能・AI等の技術革新が急速に進み、予測困難な時代が予想される。子どもたちには、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、仲間とともによりよい社会や人生を切り拓く力が求められる。この状況を踏まえ、平成29年3月31日に幼稚園・小学校・中学校の学習指導要領等の改訂告示が公示された。

新学習指導要領では、教科等の目標や内容について、以下の三つの柱に基づいて再整理されている。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○生きて働く「知識及び技能」○未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」○学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」 |
|--|

新学習指導要領では、未来を切り拓いていくための資質・能力は、これらの三つの柱が相互に関連し合いながら、育成されるという考え方に立っている。

このようなことから、平成31年度（令和元年度）以降の調査では、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、従来のA問題（主として「知識」に関する問題）とB問題（主として「活用」に関する問題）という区分が見直され、知識・活用を一体的に問うこととなった。

調査問題には、未来を切り拓いていくために、子どもたちに身に付けさせたい力が、具体的に示されている。調査問題自体が、学校や児童生徒に対して、土台となる基盤的な事項を具体的に示していることを踏まえ、実際の学習指導要領の下での授業改善、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上に関して役立てることが重要であるとしている。

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査

- ア 小学校においては国語・算数、理科、中学校においては国語・数学、理科の3教科について、調査を実施する。
- イ 出題範囲は、小学校においては小学校第5学年、中学校においては中学校第2学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりである。
 - (ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - (イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- ウ 調査問題では、上記(ア)と(イ)を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

ア 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査実施日 令和4年4月19日(火)

(5) 調査の対象

種目	学校数	対象学年及び実施児童生徒数
小学校調査	36校	小学校第6学年 1,314人(1,334人)
中学校調査	11校	中学校第3学年 1,236人(1,240人)

()内は、児童生徒質問紙調査を行った児童生徒数

2 調査結果

(1) 教科に関する調査

①小学校

<令和4年度 各教科の平均正答率>

	国語	算数	理科	全教科平均
松阪市	67.3	65.1	65.3	65.9
三重県	65	62	63	63
全国	65.6	63.2	63.3	64.0
全国との差	+1.7	+1.9	+2.0	+1.9

<主な成果○と課題●>

- 国語科では、話の中心を捉えることが概ねできている。
- 算数科では、百分率の表し方の理解が概ねできているが、さらに身に付けさせる必要がある。
- 理科では、観察の結果を比較し、自分の考えをもつことが概ねできている。
- 国語科では、問題点に対する解決方法について、自分の考えをまとめることに課題がある。
- 算数科では、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察することに課題がある。
- 理科では、自然の事物・現象から得た情報を基に、問題を見いだすことに課題がある。

<課題が見られる問題における松阪市児童の解答状況等>

(例) 国語 1 四 地域のためにできることについて話し合う(公園の美化)

◇出題の趣旨

互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

1 岡さんの学級では、地域のためにできることについて話し合うことになりました。岡さんのグループでは、学校の近くにある公園をきれいにすることについて話し合っています。次は、そのときの「話し合いの様子の一部」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

岡さん 学校の近くの公園は、広くて遊具があり、一年生ごろから遊んでいる場所です。私は、今まで使ってきた公園を自分たちできれいにすることで、もっとたくさんの人に気持ちよく使ってもらえるようにしたいです。私自身、どうすればよいか考えているところですが、みなさんはどんなアイデアがありますか。

谷原さん 私は、公園に行くとき、おかしなふくろやペットボトルがいつも落ちていて、気がになります。そこで、「ゴミを拾う機会がある」とよいと思います。「きれい」というのは、ロボットのことではなく、活動する時間のことです。

山下さん 公園のゴミを拾うことは、すぐできるのでよいと思います。でも、続けることは難しい気がします。私は、この公園には花が少ないので、許可をもらって、もっとたくさん花を植えれば、はなやかな感じになると思います。

谷原さん 確かに、山下さんの言うとおり、花を植えることは私たちにでもできるし、はなやかになり、よいと思います。ただ、こまめに公園へ行って花の水やりなどの世話を続けることも難しいそうですね。

その点については、もう少し考えていきたいと思っています。

私は、公園の遊具のベンキをぬり直したいと思っています。

どうして、公園の遊具のベンキをぬり直す必要があるのですか。

公園のすり台やジャングルジムは、できてから時間がたつていて、どれも暗く感じています。そこで、自分たちだけでできるかどうかは気になりますが、明るく感じさせるために赤色や黄色のベンキで、せびぬり直したいと思っています。

なるほど、いいアイデアですね。ベンキをぬり直して明るくすると、公園がきれいになるということですね。

こうして、みなさんの話を聞いてみると、どれも公園をきれいにするためのアイデアですね。

今までの話し合いで出たアイデアについて、よい点と問題点に分けて「メモ」をしてみました。

私は、公園が明るくなるので、ベンキをぬり直すことがよいと考えました。できるかどうかは分からないという問題点については、公園を管理している人や家の人に相談するとよいと思います。

(メモ)

アイデア	よい点	問題点
○ゴミ拾い	△ゴミがなくなる	△続けることがむずかしい
○花植え	○はなやかになる	△世話を続けることがむずかしい
○ベンキぬり	○明るくなる	△できるかどうかは分からない

みなさんのアイデアや「メモ」から、取り組みやすいという理由で、私は、

(話し合いが続く)

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	45.8	47.7
無解答率	1.8	3.0

◇松阪市児童の解答状況及び改善方策

問題点に対する解決方法にふれずに、アイデアを選んだ理由などを書いている誤答の割合が高かった。このような解答が見られた児童は、話し合いの目的を意識することができなかつたり、問題点を捉えることができて、問題点を踏まえた自分の考えをまとめることができなかった児童もいたと考えられる。

話し合いを始める際には、話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどが重要である。

みなさんのアイデアや「メモ」から、取り組みやすいという理由で、私は、

四 岡さんは、「話し合いの様子の一部」の「ゴミ拾い」か「花植え」かをどちらかを選んで話そうとしています。あなたが岡さんなら、どのように話しますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○「ゴミ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を考えて書くこと。

○【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。

○書き出しの言葉に続けて、五十文字以上、八十文字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

※◆の印から書きましょう。とちゆうて行を変えないで、続けて書きましょう。

(例) 算数 4 (1) 図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察する(プログラム)

◇出題の趣旨

正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

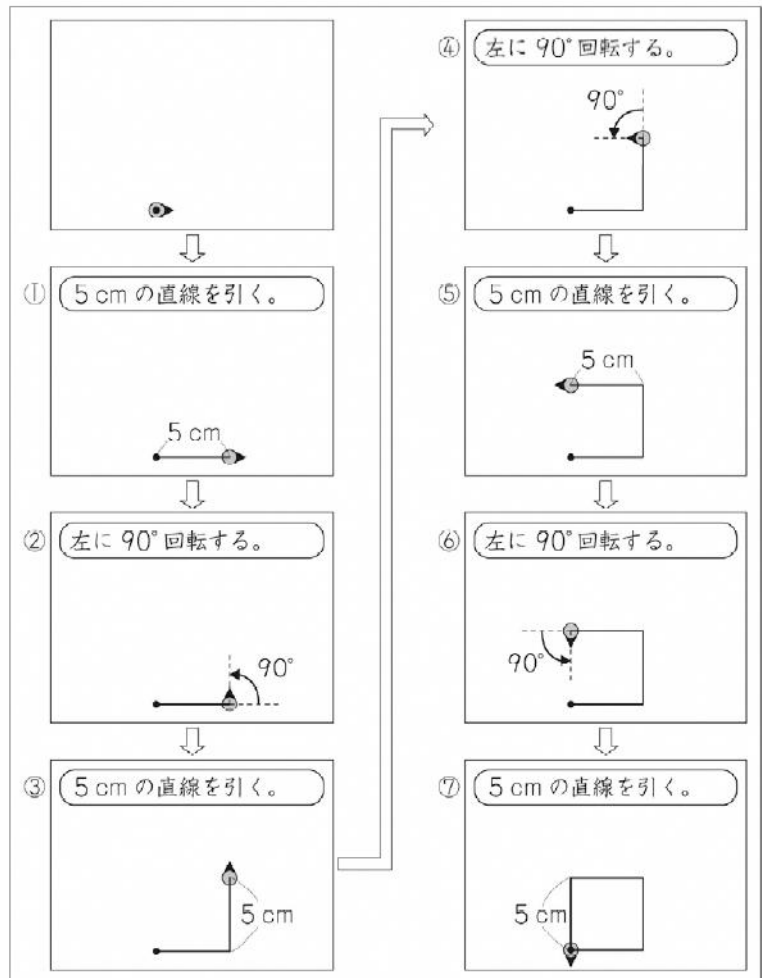
4 コンピュータは、いろいろな命令を順序よく組み合わせて動かすことができます。この命令の組み合わせを「プログラム」といいます。
はなこさんたちは、プログラムをつくり、いろいろな図形をかこうとしています。



まず、正方形をかきましょう。正方形は、4つの角が直角で、4つの辺の長さが等しい四角形ですね。

1辺が5cm の正方形をかくために、正方形のプログラムをつくりました。このプログラムを実行すると、図のように、スタート位置(●)から命令ごとに、▶ が ▶ の方向に進みながら直線を引いたり、矢印(↻)の向きに回転したりして、正方形をかくことができます。

正方形のプログラム

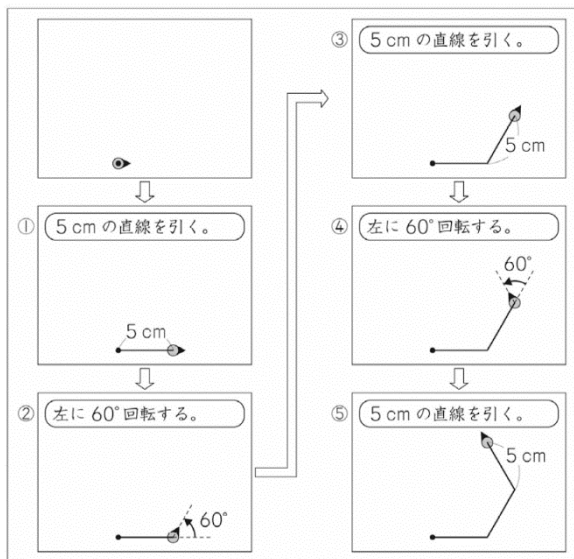


(1) はなこさんたちは、1辺が5cmの正三角形をかこうとしています。

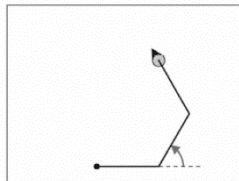


正三角形は、3つの辺の長さが等しくて、3つの角の大きさがすべて60°の三角形ですね。

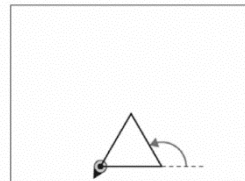
はなこさんは、**正方形のプログラム**をもとにして、正三角形をかいたためのプログラムをつくり、実行しました。



はなこさんは、下のかこうとした**正三角形**をかくことができませんでした。



実際の結果



かこうとした正三角形

そこで、つくった**プログラム**を見直すことにしました。

つくったプログラム

- ① 5 cm の直線を引く。
- ↓
- ② 左に 60° 回転する。
- ↓
- ③ 5 cm の直線を引く。
- ↓
- ④ 左に 60° 回転する。
- ↓
- ⑤ 5 cm の直線を引く。

はなこ

5 cm の直線を引く。

左に 60° 回転する。

2種類の命令のうち、どちらかの命令を直すとかこうとした正三角形ができますね。

かこうとした正三角形をかくには、どちらの命令を直すといですか。下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。また、その選んだ命令を、言葉と数を使って、正しい命令に書き直しましょう。

- ア 5 cm の直線を引く。
- イ 左に 60° 回転する。

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	46.1	48.8
無解答率	2.6	3.8

◇松阪市児童の解答状況及び改善方策

回転する角の大きさを60°としている誤答の割合が高かった。正三角形の一つの角の大きさが60°であることから、誤答につながったと考えられる。

図形の学習では、図形の意味や性質を基に、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察できるようにすることが重要である。

プログラムについて見直し、改善する活動を行う中で、正しく作図ができなかった場合には、その理由を説明できるようにすることが大切である。また、正しく作図できた場合でも、回転する角の大きさを120°にした理由を考えることができるようにすることも大切である。

(例) 理科 2 (4) 自然の事物・現象を気付きの視点で分析・解釈(粒子に関する問題)

◇出題の趣旨

自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。

(4) 砂糖水をこおらせた物は、紅茶に入れるとしずみました。



水をこおらせた物は、紅茶にうくのくに、
砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。



水に入れても、砂糖水をこおらせた物は、
しずんだよ。



砂糖水をこおらせた物だから、水にしずんだのかな。砂糖水ではない、
ほかの水よう液をこおらせた物でも試してみたいね。

はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけました。
はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	37.0	39.3
無解答率	8.1	8.7

◇松阪市児童の解答状況及び改善方策

「なぜ、砂糖水をこおらせたものは水にしずむのか」のように、現象そのものについて問う内容で記述している誤答の割合、「コーヒーシュガーをこおらせるとしずむのか」のように、水溶液を凍らせた物を対象としていない内容で記述している誤答の割合が高かった。
事実について話し合う中で、自分や他者の気付きを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定することが大切である。

②中学校

<令和4年度 各教科の平均正答率>

	国語	数学	理科	全教科平均
松阪市	69.0	51.2	47.7	56.0
三重県	68	52	48	56
全国	69.0	51.4	49.3	56.6
全国との差	±0	-0.2	-1.6	-0.6

<主な成果○と課題●>

- 国語科では、文脈に即して漢字を正しく書くことが、概ねできている。
- 数学科では、確率の意味の理解が概ねできている。
- 理科では、動物の体の共通点や相違点に着目して考察することが概ねできているが、さらに身に付けさせる必要がある。
- 国語科では、論理の展開などに注意して聞いたり、考えが伝わるように表現を工夫して話したりすることに課題がある。
- 数学科では、数に関する事象について、数学的に説明することに課題がある。
- 理科では、身に付けた知識と経験を関連付け、科学的な事象について説明することに課題がある。

<課題が見られる問題における松阪市生徒の解答状況等>

(例) 国語 1 三 スピーチをする(「最近気になったこと」)

◇出題の趣旨

自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる。

【川口さんのスピーチ】

最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校での学習にも表れていると思います。例えば、授業で、授業でインターネットを活用する機会が増えました。特に、オンラインで離れた場所にいる人と会話をすることもできて、その便利さを実感しています。一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくいという面もあるのではないかと思います。

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビューをしたことがあります。私は、画面を通してやり取りをしているという状況に気を取られて、相手に必要最小限のことを伝えるだけで精一杯になってしまいました。そのため、相手の反応を踏まえたりやりとりをすることができていないと感じました。後日、そのことを友達に話したところ、「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました。」と話してくれました。

【二人の会話の一部】

(田中) ここで動画を止めてもらえますか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもどうでしょうか。「やりとりをスムーズに行いにくい」という部分は、私も同じように感じたことがあり、この後のスピーチの内容に興味をもつことができたのでよいと思います。


(川口) ありがとうございます。

(川口) オンラインでインタビューをしたときのことを入れてみました。どうでしょうか。

(田中) 身近な内容で共感できました。始めに話したことにつながっている点がよいと思います。

(田中) 川口さんが伝えたい内容は分かりました。ただ、スピーチの冒頭から同じ調子で話しているのが、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方を工夫してみてもどうでしょうか。例えば、「オンラインで離れた場所にいる人と会話をすること」という部分は、伝えたい内容に関係することなので、聞き手に関心をもってもらうために、ゆっくり大きな声で話すとよいのではないのでしょうか。

(川口) なるほど。他の部分も話し方を工夫してみます。



◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	43.1	51.8
無解答率	19.4	16.2

◇松阪市生徒の解答状況及び改善方策

工夫の意図を示すことができていない誤答、どのように工夫するかを示すことができていない誤答、どの部分を工夫するかを示すことができていない誤答が、それぞれ一定の割合で見られた。

自分の考えを、分かりやすく伝わるように話すためには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが大切である。例えば、ICT 機器を活用し、スピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確かめたりする活動を行うことも工夫の一つである。

三 「二人の会話の一部」に、——線部③「他の部分も話し方を工夫してみます。」とありますが、あなたならどの部分をどのように工夫して話しますか、次の**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「川口さんのスピーチ」のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに着目して具体的に書くこと。

条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

(例) 数学 6 (3) 構想を立てて説明し、統合的・発展的に考察すること(2つの偶数の和)

◇出題の趣旨

結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる。

㊦ 康太さんは、2つの偶数の和がどのような場合に4の倍数になるかを調べています。

$$\begin{array}{ccc} 2 + 2 = 4 & 4 + 2 = 6 & 6 + 2 = 8 \\ 2 + 4 = 6 & 4 + 4 = 8 & 6 + 4 = 10 \\ 2 + 6 = 8 & 4 + 6 = 10 & 6 + 6 = 12 \end{array}$$

$2 + 2 = 4$ 、 $4 + 4 = 8$ 、 $6 + 6 = 12$ のように、同じ2つの偶数の場合、2つの偶数の和が4の倍数になっていることから、康太さんは次のように予想しました。

$4 = 4 \times 1$
 $8 = 4 \times 2$
 $12 = 4 \times 3$
 3つとも4の倍数になっているね。



予想1

同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

上の予想1がいつでも成り立つことは、次のように説明できます。

説明1

n を整数とすると、偶数は $2n$ と表される。
 同じ2つの偶数の和は、

$$2n + 2n = 4n$$

 n は整数だから、 $4n$ は4の倍数である。
 したがって、同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

- (1) 説明1では、 n を整数として、同じ2つの偶数の和を $2n + 2n = 4n$ と表しています。この式は n の値が9のとき、どのような2つの偶数の和を表していますか。「 $8 + 8 = 16$ 」、「 $14 + 14 = 28$ 」のように書きなさい。

- (2) 康太さんは、 $2 + 6 = 8$ のように、同じ2つの偶数の和のほかにも、4の倍数になることがあることから、さらにくわしく調べてみました。

$$\begin{array}{l} 2 + 6 = 8 = 4 \times 2 \\ 6 + 2 = 8 = 4 \times 2 \\ 10 + 14 = 24 = 4 \times 6 \\ 28 + 32 = 60 = 4 \times 15 \end{array}$$

そして、次のように予想しました。

予想2

差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。

$2 + 6$ と $6 + 2$ は同じとみていいから、
 (小さい方の偶数) + (大きい方の偶数)
 について説明すればいいね。



上の予想2がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

n を整数とすると、差が4である2つの偶数のうち、小さい方の偶数は、 $2n$ 、大きい方の偶数は $2n + 4$ と表される。
 それらの和は、

$$2n + (2n + 4)$$

$$=$$

- (3) 同じ2つの偶数の和や、差が4である2つの偶数の和のほかにも、2つの偶数の和がいつでも4の倍数になることがあります。どのような2つの偶数のとき、その2つの偶数の和が4の倍数になりますか。前ページの予想2のように、「～は、…になる」という形で書きなさい。

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	31.1	37.6
無解答率	29.3	26.2

◇松阪市生徒の解答状況及び改善方策

2つの偶数の差に着目したが、4の倍数になるような2つの偶数の差を見いだして説明することができなかつたと考えられる誤答の割合や、どのような2つの偶数の和が4の倍数になるかを求めようとしたが、和が4の倍数になる2つの偶数の特徴を見いだすことができなかつたと考えられる誤答の割合が高かった。
具体的な数を用いて和が4の倍数になる2つの偶数について取り上げ、その2つの偶数にどんな特徴があるのかについて話し合う場面を設定するなど、結論が成り立つための前提を捉えられるようにすることが大切である。

(例)理科 1 (1) タッチパネルを科学的に探究する(「エネルギー」を柱とする領域)

◇出題の趣旨

日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。

- 1 タブレット型端末のタッチパネルについて、理科の授業で科学的に探究しました。
(1)と(2)の各問いに答えなさい。

ノートの一部

【タッチパネルについて調べたこと】

タッチパネルは、液晶画面と表面の保護ガラスとの間に静電気を発生させている。

図のように保護ガラスに触れると静電気のようなすが変化し、その変化をセンサーが読み取り、画面上の位置が分かる。

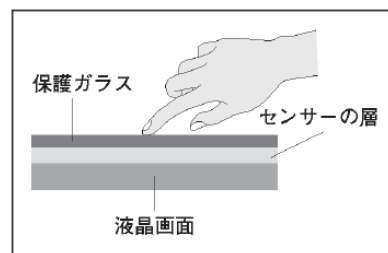


図 タッチパネルの模式図(断面)

- (1) 日常生活の動作の中で、物体が静電気を帯びるものとして最も適切なものを、
下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 手で地面に触れる。
- イ プラスチック製のものさしを布でこする。
- ウ カギ穴にカギをさす。
- エ 金属製のドアノブに触れる。

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	33.2	44.2
無解答率	0.1	0.1

◇松阪市生徒の解答状況及び改善方策

日常生活の動作の中で発生する静電気の性質が放電だけであると考え、物体が静電気を帯びる現象と静電気の放電を区別することができていないと考えられる誤答の割合が高かった。

日常生活の動作の中で発生する静電気の性質により引き起こされる現象や、静電気を利用したものを静電気の性質と関連付けて説明する学習場面を設定するとともに、日常生活における静電気に関する現象を、静電気の性質と関連付けながら帯電と放電に分けて整理することが重要である。

(2) 質問紙調査

①-1 学習への興味・関心等

※ :R3年度調査等比べて改善傾向にあるもの :全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
49	国語の勉強は好きですか	55.5	57.5	59.2	56.0	61.2	61.9
53	算数(数学)の勉強は好きですか	64.2	63.2	62.5	61.0	61.1	58.1
58	算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	83.1	81.0	80.4	80.4	78.9	75.2
59	算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	79.4	77.9	76.8	76.4	72.8	70.2
61	理科の勉強は好きですか(H30年度と比較)	74.7	77.3	79.7	63.6	64.3	66.4
66	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いませんか(H30年度と比較)	23.8	26.4	26.6	22.2	22.8	22.1

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

小中学校ともに算数(数学)に関する3つの質問に対して、肯定的に回答した児童(生徒)の割合が全国平均を上回った。一方で、「国語の勉強は好き」「理科の勉強は好き」と答えた児童(生徒)の割合は、全国平均を下回った。

①-2 基本的生活習慣、学習習慣等

※ :R3年度調査等比べて改善傾向にあるもの :全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	78.7	80.7	81.5	79.0	80.3	79.9
5	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか ※1時間より少ないと回答した児童(生徒)の割合	20.1	20.9	23.9	24.8	25.0	28.6
20	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	71.2	69.5	71.1	62.2	62.1	58.5
21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) ※1時間以上と回答した児童(生徒)の割合	60.3	56.5	59.4	67.6	68.5	69.5
23	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) ※10分以上と回答した児童(生徒)の割合	60.8	56.8	59.6	46.3	44.1	48.6
25	新聞を読んでいますか	11.0	12.9	13.8	9.2	10.0	9.4
26	読書は好きですか	74.6	72.5	73.1	70.2	67.8	68.2

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

小中学校ともに質問番号20に対して、肯定的に回答した児童(生徒)の割合が全国平均を上回った。一方で、質問番号5に対して肯定的に回答した児童(生徒)は全国平均を下回っており、7割以上の児童(生徒)が1日に1時間以上テレビゲームをしていることがうかがえる。

①-3 学習活動等

(i) 「主体的・対話的で深い学び」に関する学習状況

※ : R3年度調査等に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問 番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
38	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	67.0	63.6	65.4	67.5	60.9	63.3
39	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	79.2	77.6	77.3	84.4	83.1	79.2
40	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか(新規)	72.7	70.3	72.2	71.8	68.5	67.4
41	授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか(新規)	67.4	65.3	68.4	67.1	65.6	67.2
42	授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	83.9	80.3	79.7	81.8	79.6	75.3
43	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	81.4	78.6	80.1	81.5	80.1	78.7
44	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.9	78.6	78.2	80.4	78.0	74.7
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	64.1	64.5	72.7	68.4	64.5	72.1

(数値は肯定的な回答の割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

質問番号38・39・40・42・43・44に対して、肯定的に回答した児童(生徒)の割合について全国平均を上回っており、各学校において、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が進められていることがうかがえる。一方で、質問番号45に対する肯定的な回答が全国平均を下回っており、総合的な学習の時間の内容の充実を図る必要がある。

①-3 学習活動等

(ii) ICT を活用した学習状況

※ 91.5 :R3年度調査等に比べて改善傾向にあるもの 97.2 :全国の割合を上回っているもの

質問 番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
32	5年生までに(1,2年生のときに)受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※週に1回以上と回答した児童(生徒)の割合	91.5	87.5	83.2	97.2	90.6	80.6
33	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)(新規) ※週に1回以上と回答した児童(生徒)の割合	83.5	78.4	76.1	93.5	81.3	71.7
34	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか ※週に1回以上と回答した児童(生徒)の割合	65.8	56.7	49.4	86.9	64.2	43.5
35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(新規) ※週に1回以上と回答した児童(生徒)の割合	61.0	54.2	45.2	75.7	55.0	35.3
36	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	97.0	94.6	94.4	95.4	92.9	92.6

(数値は肯定的な回答の割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

ICT 機器の活用頻度及び有用性に関する質問に対して、肯定的に回答した児童(生徒)の割合が全国平均を上回っており、ほとんどの児童(生徒)が「ICT 機器を使うことが勉強の役に立つ」と捉えていることがうかがえる。

② 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

※ :R3年度調査等に比べて改善傾向にあるもの :全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
7	自分には、よいところがあると思いますか	81.0	77.9	79.3	82.5	79.7	78.5
9	将来の夢や目標を持っていますか	78.9	78.3	79.8	69.4	68.6	67.3
10	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	88.4	87.9	87.2	90.3	88.0	86.6
11	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	72.5	72.8	72.5	70.7	68.0	67.1
12	人が困っているときは、進んで助けていますか	92.5	89.9	88.9	93.1	90.1	88.4
13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.0	97.1	96.8	97.9	96.9	96.4
15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.4	94.9	95.1	96.7	95.7	95.0
17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	74.9	73.1	73.5	80.8	78.4	76.9
18	友達と協力するのは楽しいと思いますか	95.3	94.1	94.0	95.8	94.8	93.7

(数値は肯定的な回答の割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

中学校においては、取り上げた全ての質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合が全国平均を上回った。小学校においても、質問番号7・10・12・13・15・17・18に対する肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。一方で、小学校においては、質問番号9に対する肯定的な回答が全国平均を下回っており、引き続き、早期から児童が安心して学び、夢を育むことができる環境づくりを進めていく必要がある。

③ 地域や社会に関わる活動の状況等

※ :R3年度調査等に比べて改善傾向にあるもの :全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
28	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事の先生は除く)(新規)	32.1	31.5	30.6	22.7	22.5	21.1
29	今住んでいる地域の行事に参加していますか	63.3	58.3	52.7	45.8	46.8	40.0
30	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	53.1	50.2	51.3	46.8	43.4	40.7
57	算数(数学)の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	71.5	69.8	69.3	51.0	49.0	47.3
64	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか(H30年度と比較)	65.5	67.4	67.9	55.4	53.0	52.7

(数値は肯定的な回答の割合)

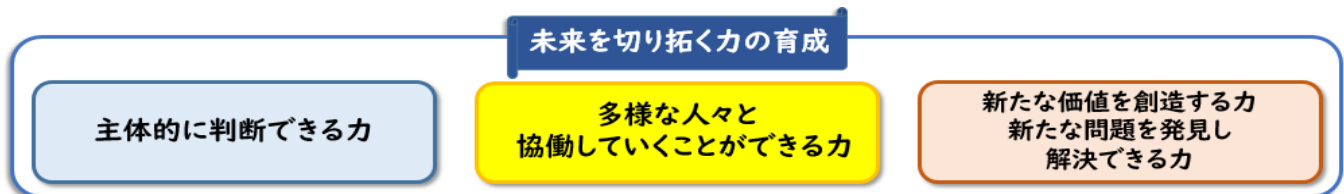
<松阪市全体の特徴的な傾向>

小中学校ともに、取り上げたほとんどの質問に対して、肯定的に回答した児童(生徒)の割合が全国平均を上回っているが、質問番号30に対する肯定的な回答が5割程度であることから、学校・家庭・地域が協働し、児童(生徒)が学習内容を日常生活や社会生活と関連付けながら学習できる体制づくりを進める必要がある。

3 成果につながったと考えられる松阪市の取組

(1) 基本的な考え方

文部科学省では、これからの予測困難な社会を生き抜く子どもたちに育てたい力として、教室の中だけで学習を終えるのではなく、自ら課題を見つけ、自ら考え、判断して行動し、仲間とともによりよい社会や人生を切り拓く力を掲げている。令和3年度、松阪市においては、学習指導要領の着実な実施と GIGA スクール構想に係る ICT 環境整備を踏まえ、子どもたちに未来社会を切り拓くための資質・能力の一層確実な育成を図る取組を各学校で行った。教育活動の質を高めるためには、子どもたちの学びの姿や教育活動を振り返り、改善・充実を図っていくことが大切である。



(2) 松阪市教育委員会の具体的な取組

① 「主体的・対話的で深い学び」の創造

- 未来を切り拓く学力向上タスクフォースによる授業改善方策の提供
- 未来を切り拓く力育成モデル校区による取組の充実
- 指導主事による校内研修等での指導助言（オンライン研修含む）
- 授業力向上アドバイザー派遣
- 学級経営マイスター事業による安心して学ぶことができる学級づくりの推進
- 松阪市標準学力調査を活用した個に応じた指導の充実
- 一人一台端末（LTE モデル）の整備
- デジタルドリル学習、学習動画の活用等の推進

② 「カリキュラム・マネジメント」の確立

- 「本居宣長さんの教え 5つのチャレンジ」の作成及び啓発
- 教務担当者会・教科担当者会の実施
- ICT 支援員の派遣
- Q-U 及び hyper-QU の分析結果から見えてきた課題（各学級の実態、児童生徒一人ひとりの実情等）の解決に向けた指導助言
- 学校マネジメントコーディネーターによる学校マネジメントに係る指導助言
- コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の推進に係る研修会等の実施

(3) 学校の取組

① 「主体的・対話的で深い学び」の創造

- 児童生徒が課題解決に向けて主体的に取り組むことができるような課題設定
- 児童生徒が目的を意識できるような学習の設定
- 各教科等の特質に応じた言語活動の展開
- デジタルドリルの計画的な活用
- 個に応じた補充学習や授業と連動した家庭学習の実施
- 総合的な学習の時間における探究の過程の充実

② 「カリキュラム・マネジメント」の確立

- 各教科等の学習内容を横断的な視点で捉えた配列の工夫
- ビブリオバトル、家読、読書マラソン、読書貯金等の読書週間の確立
- 各学校のめざす姿や資質・能力の育成につながる PDCA サイクルの確立
- Q-U 及び hyper-QU の分析を基にした個や集団に応じた指導の PDCA サイクルの確立
- コミュニティ・スクールによる学校運営等に関する PDCA サイクルの確立
- 地域等の外部の資源を含めた、効果的な指導計画の作成・活用

4 調査結果の分析

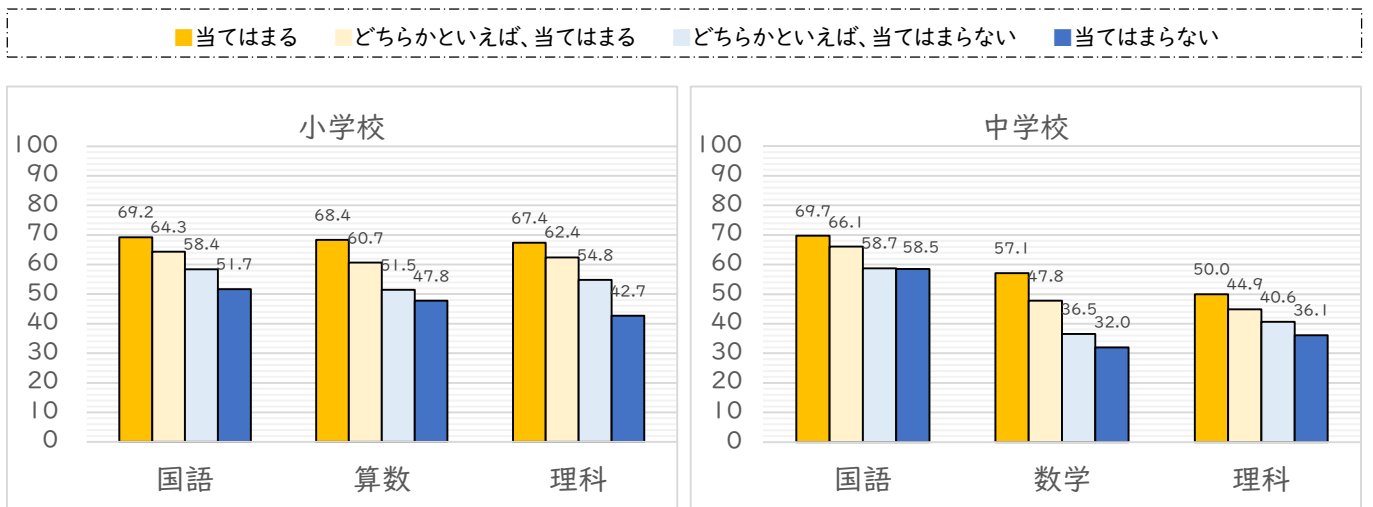
(1) 学習への興味・関心等、基本的な生活習慣、学習習慣等、学習活動等に関する取組状況と学力とのクロス分析

学習への興味関心等、基本的な生活習慣、学習習慣等、学習活動等に関連する児童生徒質問紙調査の結果と教科に関する調査結果からクロス分析を加え、学力との相関関係について考察した。また、学習活動等については、学校質問紙調査を基に、カリキュラム・マネジメントの確立の視点から松阪市の取組状況を考察した。

① 学習への興味・関心等

学習への興味・関心等	
質問番号	質問事項
58	算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

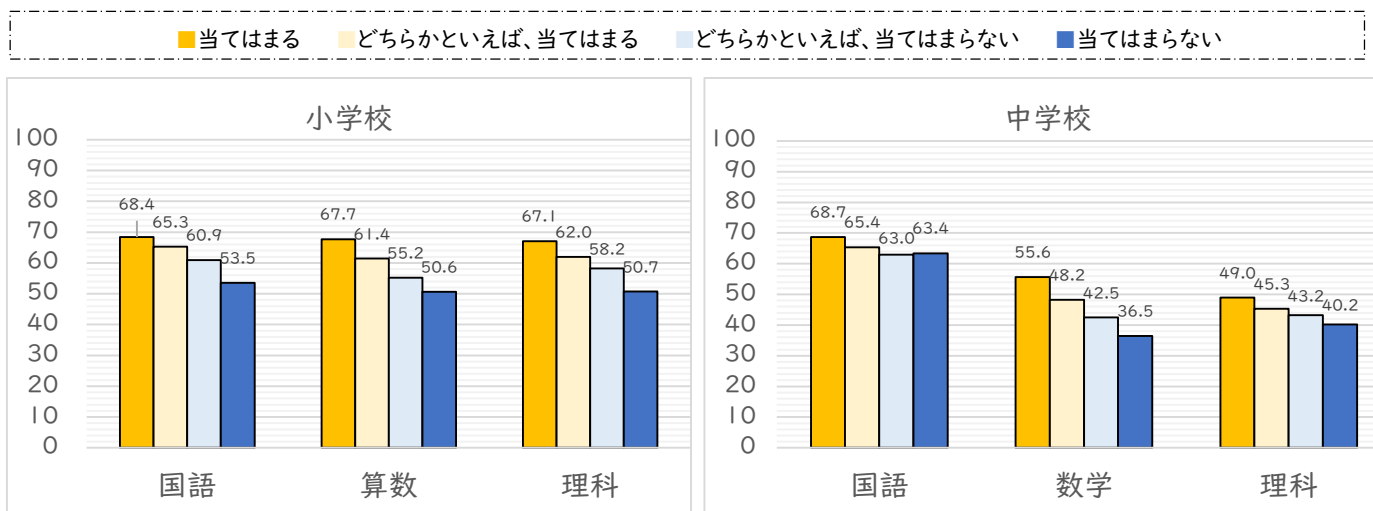
<学力とのクロス分析>



(数値は平均正答率)

学習への興味・関心等	
質問番号	質問事項
59	算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか

<学力とのクロス分析>



(数値は平均正答率)

<分析結果を踏まえて>

「算数(数学)であきらめずにいろいろな方法を考える」「算数(数学)でもっと簡単に解く方法がないか考える」と回答している児童(生徒)の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、粘り強く取り組んだり、学習を調整しようとする態度を育むことは重要であることがうかがえる。

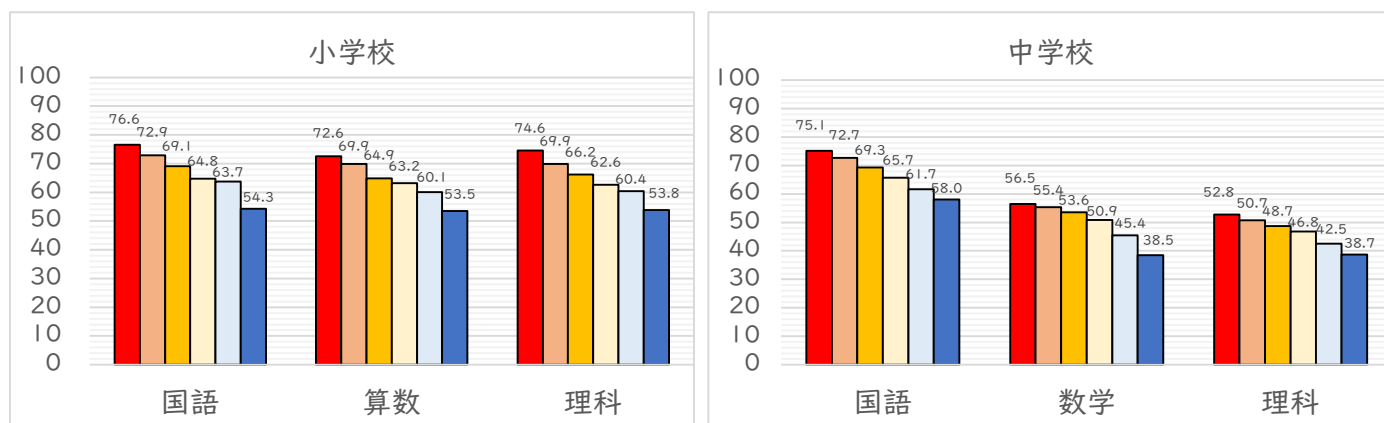
② 基本的生活習慣、学習習慣等

基本的生活習慣、学習習慣等

質問番号	質問事項
5	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか

<学力とのクロス分析>

■ 全くしない ■ 1時間より少ない ■ 1時間以上、2時間より少ない
■ 2時間以上、3時間より少ない ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 4時間以上



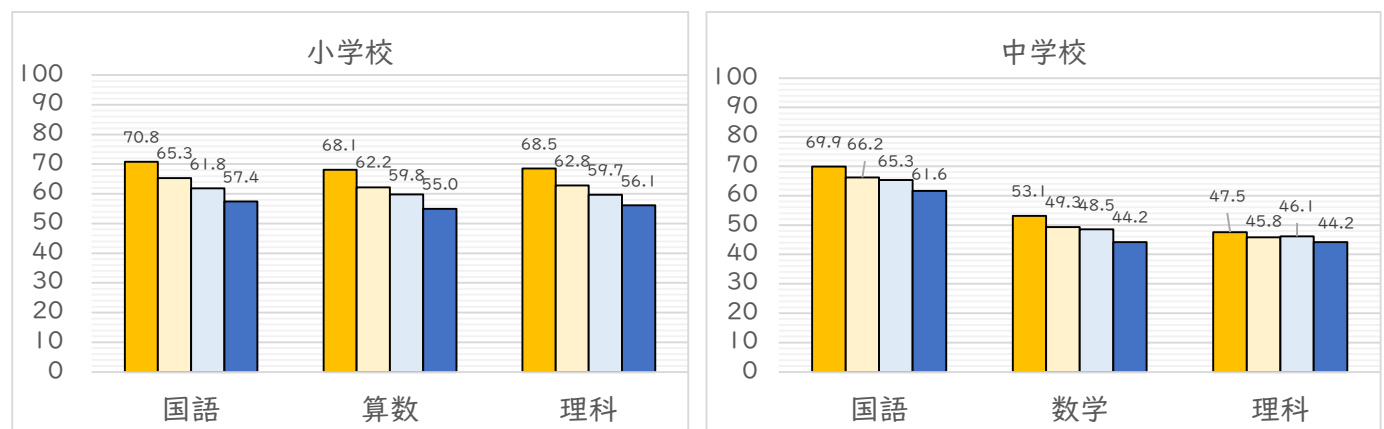
(数値は平均正答率)

基本的生活習慣、学習習慣等

質問番号	質問事項
20	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

<学力とのクロス分析>

■ よくしている ■ ときどきしている ■ あまりしていない ■ 全くしていない



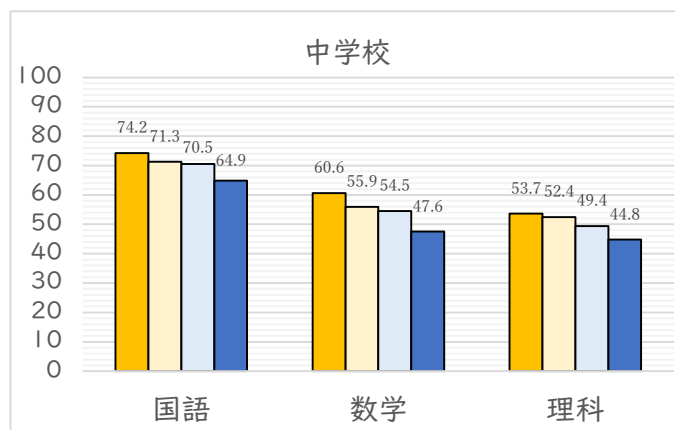
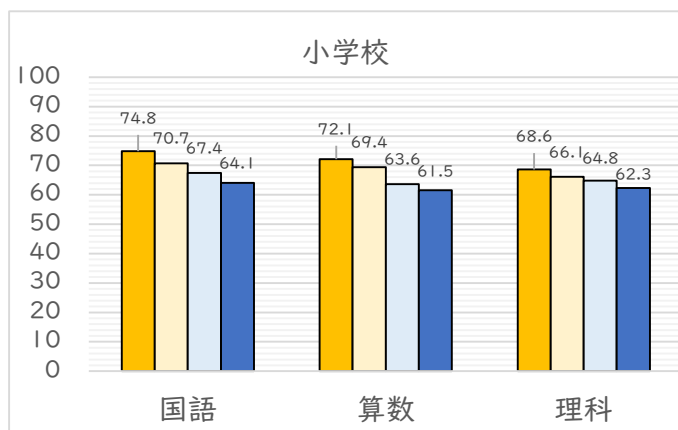
(数値は平均正答率)

基本的生活習慣、学習習慣等

質問番号	質問事項
25	新聞を読んでいますか

<学力とのクロス分析>

■ほぼ毎日 ■週に1~3回程度 ■月に1~3回程度 ■ほとんど、または、全く



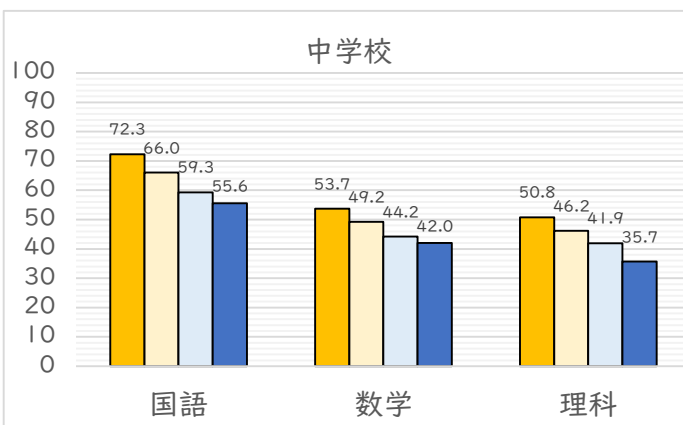
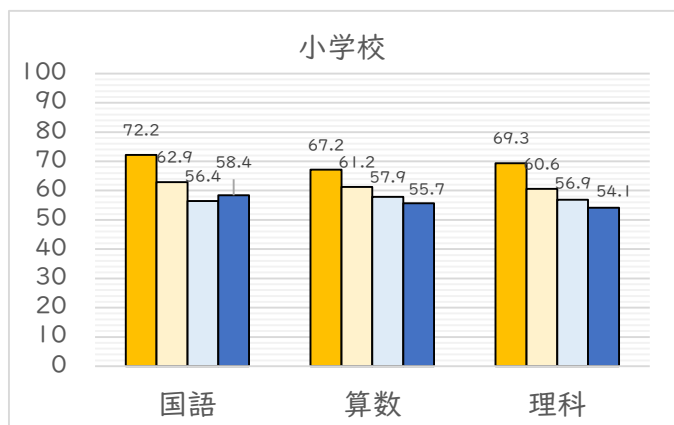
(数値は平均正答率)

基本的生活習慣、学習習慣等

質問番号	質問事項
26	読書は好きですか

<学力とのクロス分析>

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



(数値は平均正答率)

<分析結果を踏まえて>

「ゲームをする時間が少ない」「家で自分で計画を立てて勉強する」「新聞を読む」「読書が好き」と回答している児童(生徒)の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、児童(生徒)に対して、学校と家庭が協働し、家庭学習等に関する習慣を身に付けさせることは重要であると考えられる。

③ 学習活動等

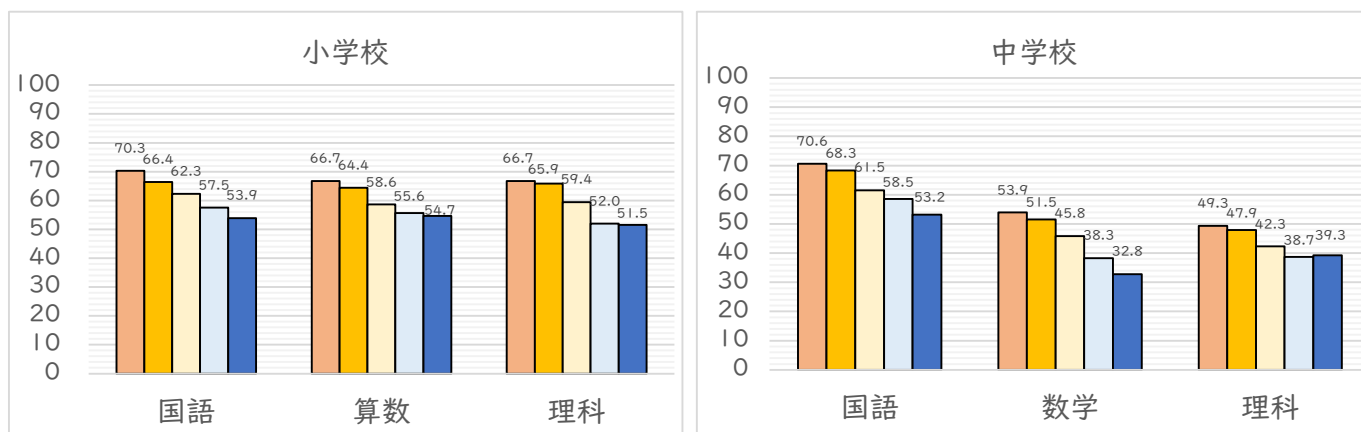
(i) 「主体的・対話的で深い学び」に関する学習状況

学習活動等（「主体的・対話的で深い学び」に関する学習状況）

質問番号	質問事項
38	これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

<学力とのクロス分析>

■発表していた ■どちらかといえば、発表していた ■どちらかといえば、発表していなかった ■発表していなかった ■機会はなかった



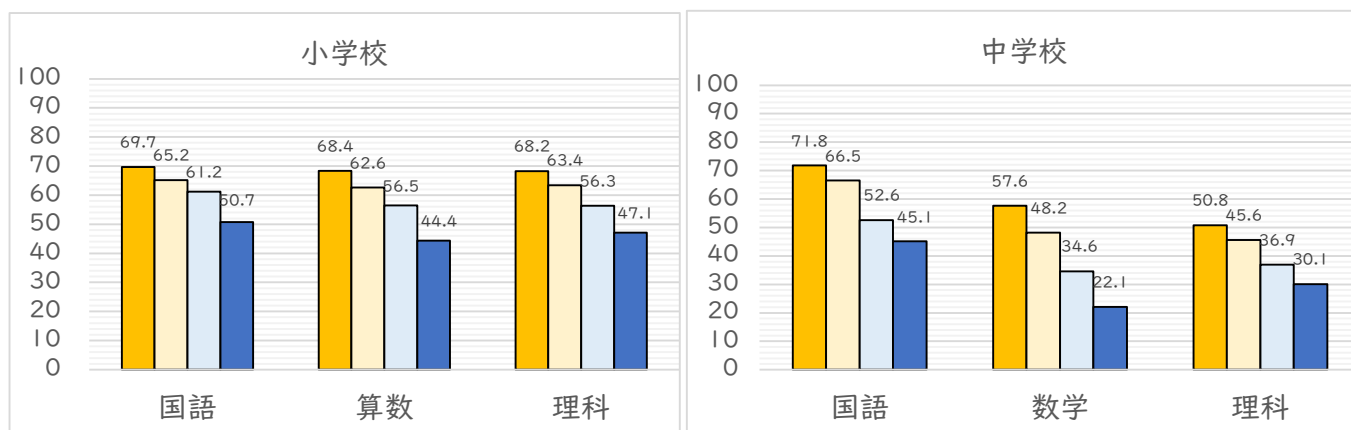
(数値は平均正答率)

学習活動等（「主体的・対話的で深い学び」に関する学習状況）

質問番号	質問事項
39	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

<学力とのクロス分析>

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



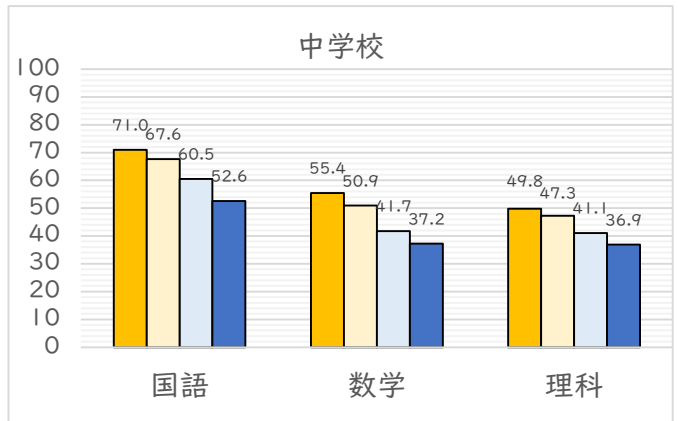
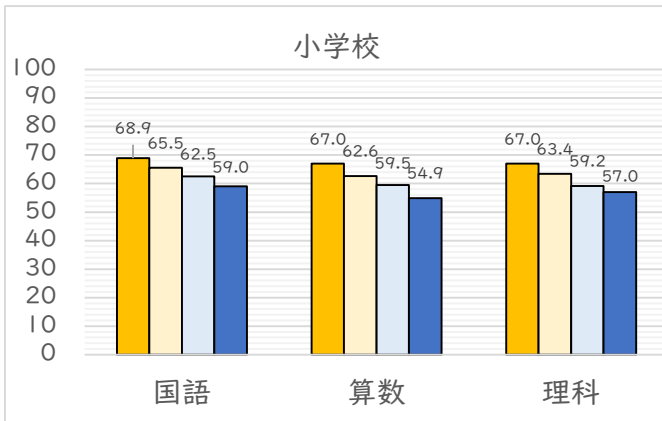
(数値は平均正答率)

学習活動等(「主体的・対話的で深い学び」に関する学習状況)

質問番号	質問事項
40	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

<学力とのクロス分析>

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



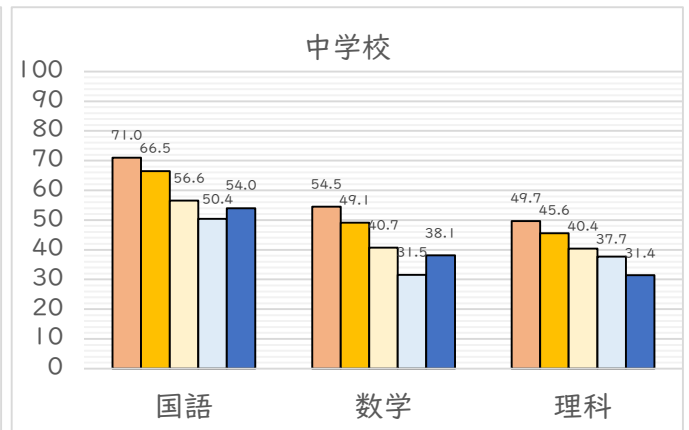
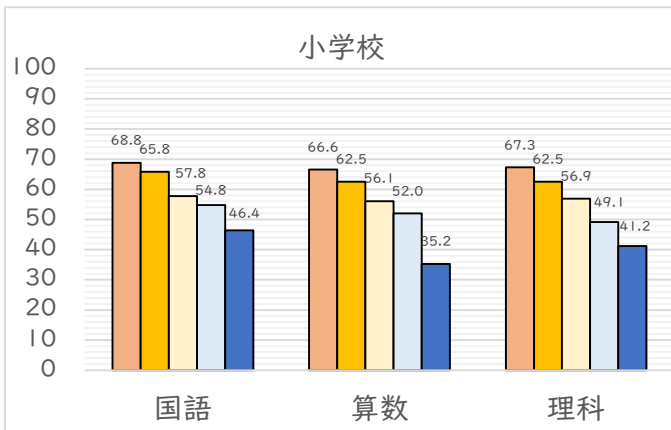
(数値は平均正答率)

学習活動等(「主体的・対話的で深い学び」に関する学習状況)

質問番号	質問事項
43	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

<学力とのクロス分析>

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■話し合う活動を行っていない



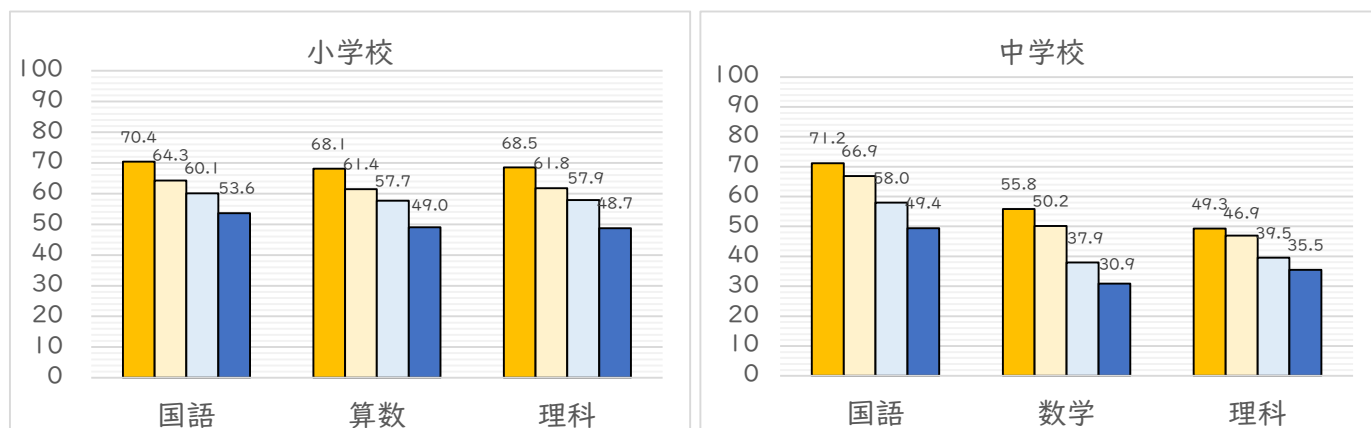
(数値は平均正答率)

学習活動等(「主体的・対話的で深い学び」に関する学習状況)

質問番号	質問事項
44	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

<学力とのクロス分析>

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



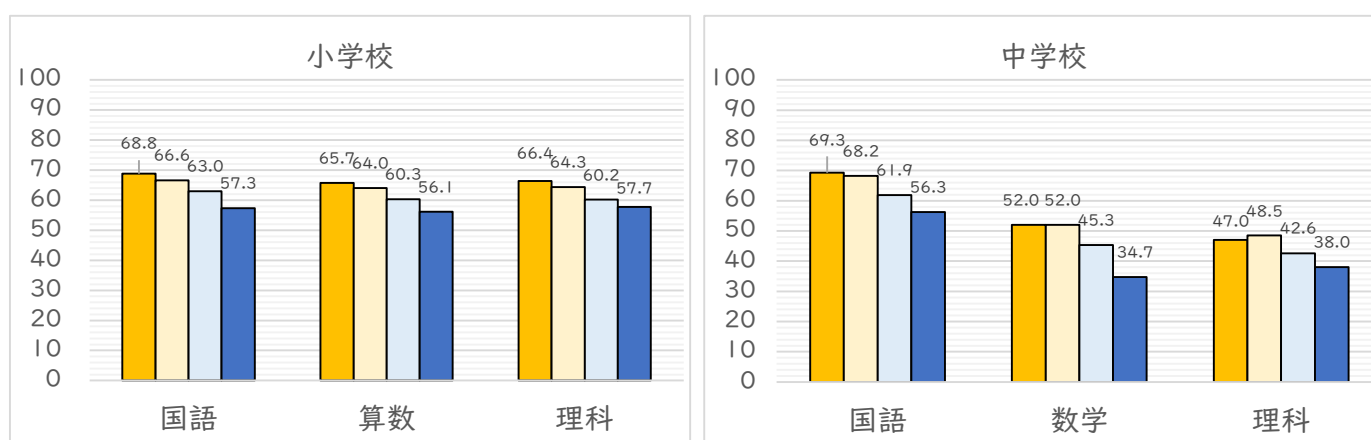
(数値は平均正答率)

学習活動等(「主体的・対話的で深い学び」に関する学習状況)

質問番号	質問事項
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

<学力とのクロス分析>

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



(数値は平均正答率)

◆学校質問紙

: 全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
16	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	94.5	96.2	94.8	72.8	92.1	91.3
28	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	97.2	96.5	96.8	100	99.4	97.1
29	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	94.5	87.4	89.8	91.0	86.3	87.0
30	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	86.1	90.1	88.0	91.0	91.5	88.2
31	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	86.1	86.2	83.4	63.7	79.7	76.6
33	調査対象学年の児童(生徒)に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	77.8	88.3	90.8	72.8	85.0	89.6

(数値は肯定的な回答の割合)

<分析結果を踏まえて>

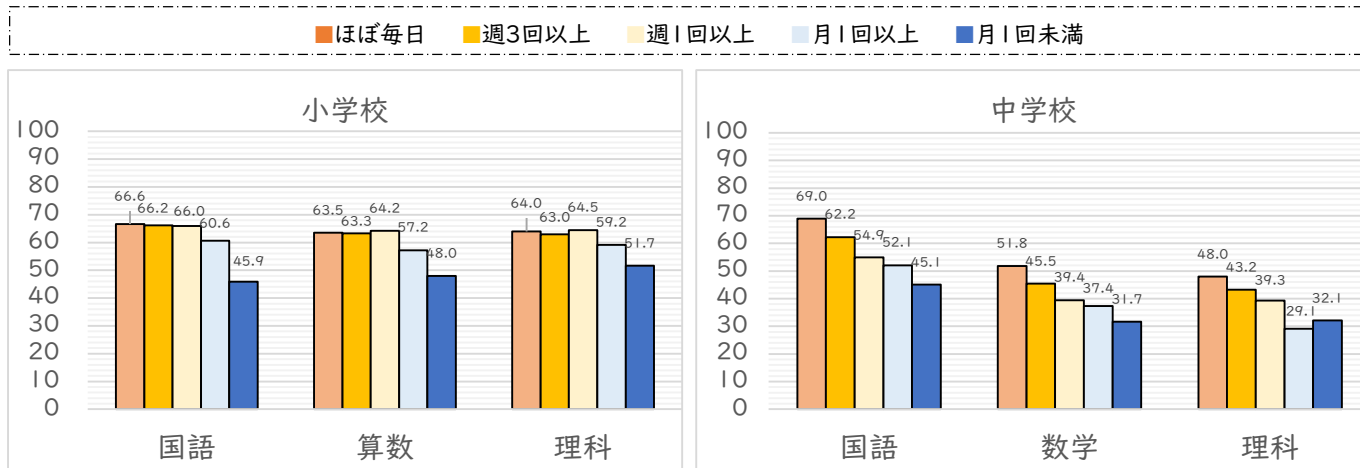
「主体的・対話的で深い学び」の視点に関する質問に対して、肯定的に回答した児童(生徒)の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、授業において、身に付けさせたい力を明確にし、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせた言語活動や数学的活動、観察、実験等が行えるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めていくことが重要であると考えられる。また、学校質問紙調査では、探究の過程を意識した指導についての質問に対して、全国平均を下回っていることから、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するために、総合的な学習の時間の内容をさらに充実させていくことが必要であると考えられる。

(ii) ICT を活用した学習状況

学習活動等 (ICT を活用した学習状況)

質問番号	質問事項
32	これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

<学力とのクロス分析>



(数値は平均正答率)

◆学校質問紙

：全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
小 58 中 56	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ(教員は除く)がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか	72.2	63.2	69.3	81.9	67.3	69.3
小 59 中 57	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか ※週に1回以上と回答した児童(生徒)の割合	100	98.3	97.7	100	83.6	73.8
小 67-1 中 65-1	児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用していますか ※週に1回以上と回答した児童(生徒)の割合	80.6	37.7	26.7	81.9	36.6	25.3
小 67-2 中 65-2	児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童(生徒)のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用していますか ※週に1回以上と回答した児童(生徒)の割合	72.2	49.8	32.4	63.7	33.9	22.2
小 67-3 中 65-3	児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童(生徒)の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか ※週に1回以上と回答した児童(生徒)の割合	72.2	58.3	48.6	63.7	46.4	35.3

<分析結果を踏まえて>

(数値は肯定的な回答の割合)

松阪市においては、ICT 機器の活用頻度について、「週1回以上」と回答している児童(生徒)の方が、「週1回未満」と回答している児童(生徒)よりも、教科の平均正答率が高い傾向が見られた。また、学校質問紙調査から、ICT 機器の活用に関して、技術的にサポートできる体制が整っていると回答した学校の割合や、家庭におけるオンラインを活用した学習やスタディ・ログを活用した学習等について、「週に1回以上」と回答した学校の割合が、全国平均を上回っている。今後、ICT 機器のより効果的な活用方法や、ICT 機器を活用する場面、指導方法等について検証していく必要がある。

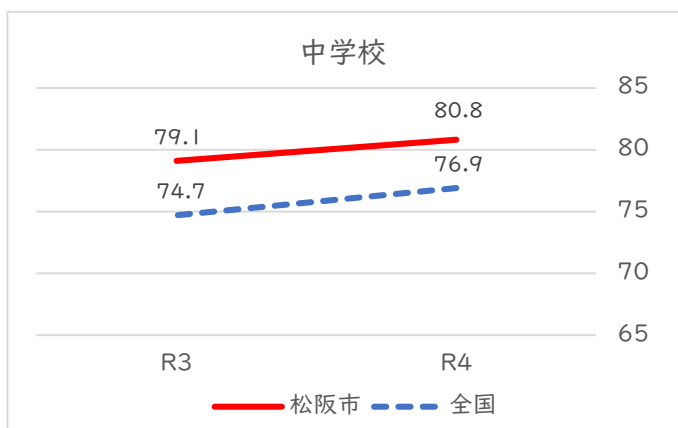
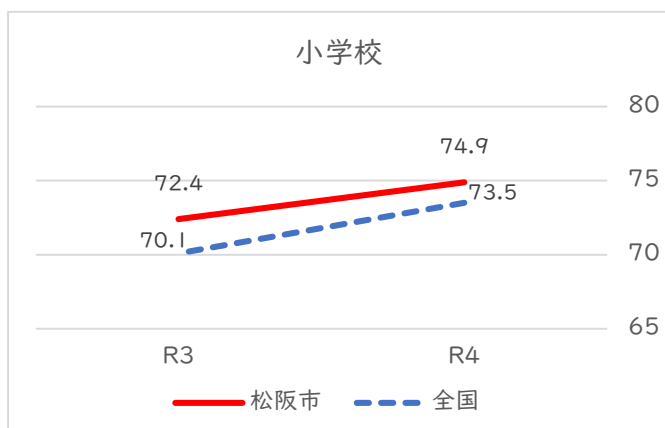
(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関する状況に関する経年変化分析及び学力とのクロス分析

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関連する児童生徒質問紙調査結果の経年変化分析と、教科に関する調査結果からクロス分析を加え、学力との相関関係について考察した。

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

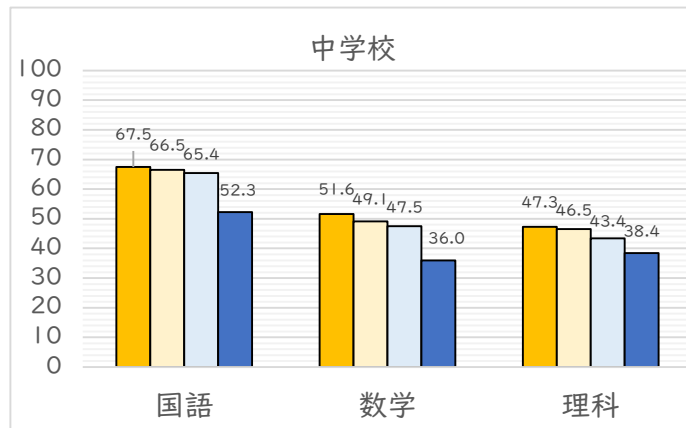
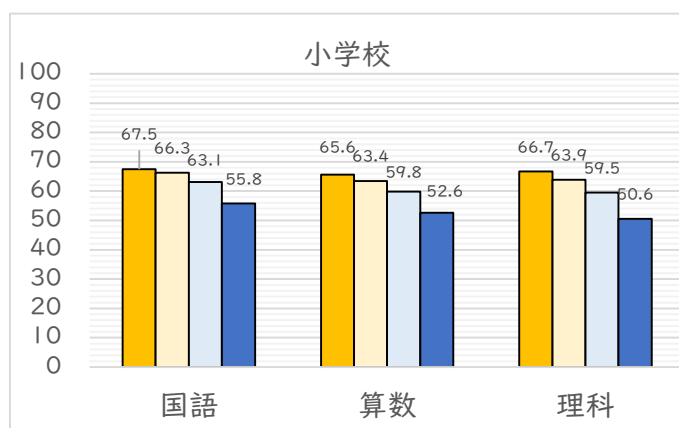
質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	74.9	73.1	73.5	80.8	78.4	76.9

<経年変化>



<学力とのクロス分析>

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



(数値は平均正答率)

<分析結果を踏まえて>

小中学校ともに、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答している児童(生徒)の割合が、昨年度を上回った。また、学力とのクロス分析から、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答している児童(生徒)の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られた。児童(生徒)が安心して友達と関わったり、意見を伝え合ったりすることができる環境づくりを早期から発達段階に応じて行うことが重要であると考えられる。また、多様な人々と考えを伝え合う活動を位置付け、目的や相手に応じた言語活動を行わせることも重要であると考えられる。

(3) 学校・家庭・地域の協働体制の構築に向けた取組状況の分析

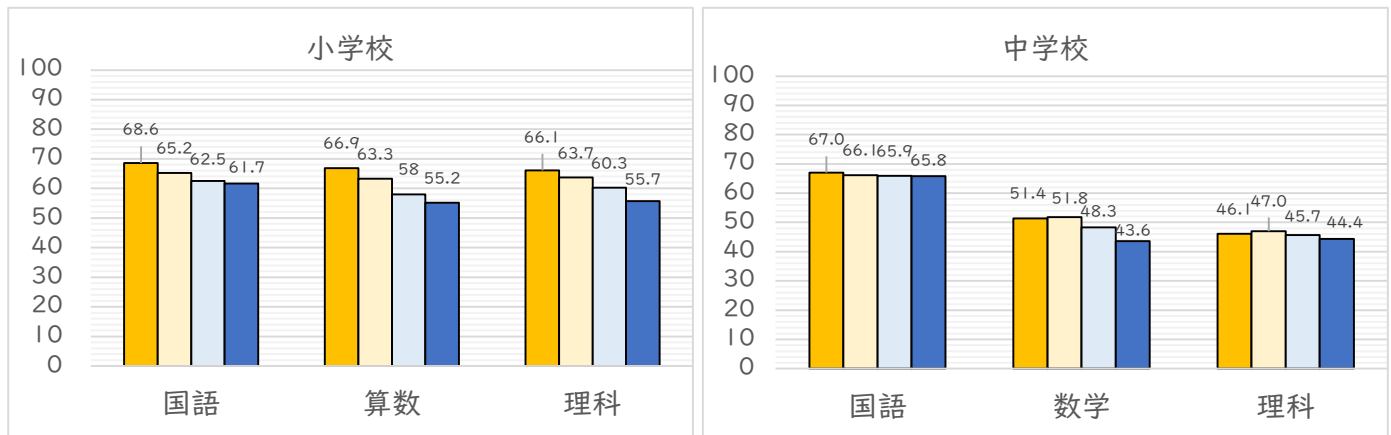
日常生活や社会生活に関連する児童生徒質問紙調査結果と教科に関する調査結果からクロス分析を加え、学力との相関関係について考察した。また、学校・家庭・地域の協働に関連する学校質問紙調査及び児童生徒質問紙調査の結果から、協働体制の構築に向けた取組状況について分析した。

日常生活や社会生活との関連等

質問番号	質問事項
57	算数(数学)の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか

<学力とのクロス分析>

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



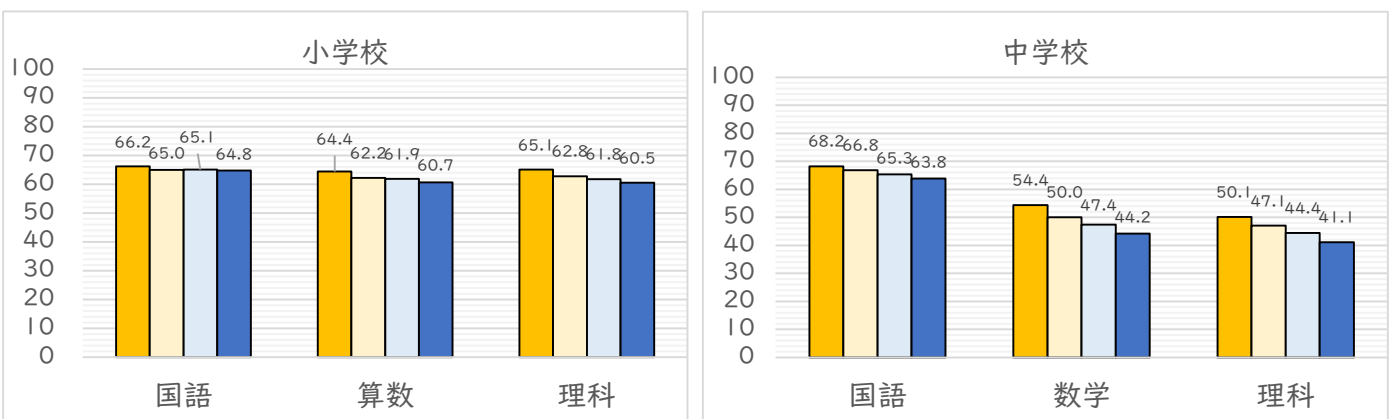
(数値は平均正答率)

日常生活や社会生活との関連等

質問番号	質問事項
64	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか

<学力とのクロス分析>

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



(数値は平均正答率)

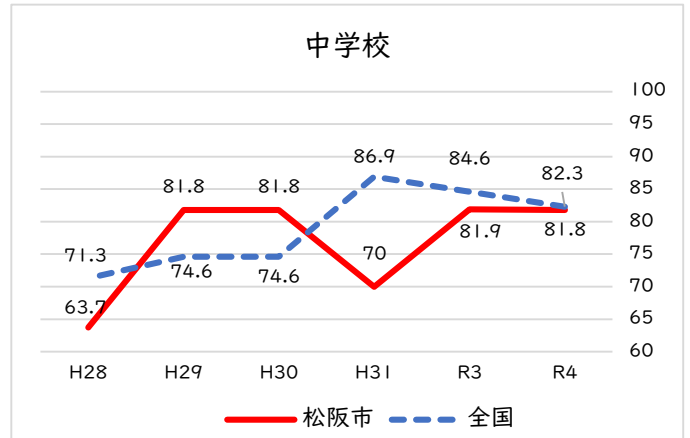
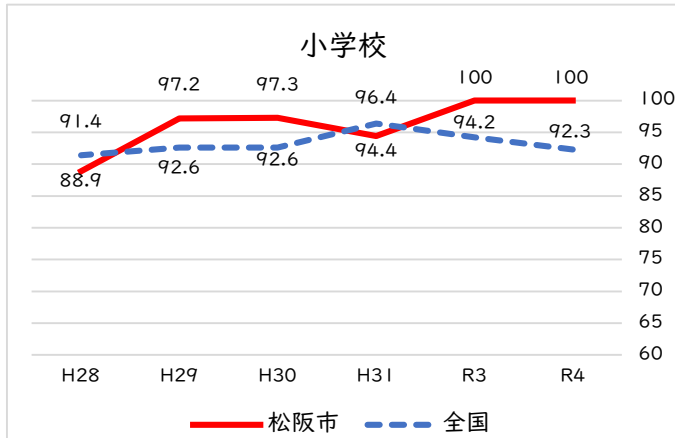
◆学校質問紙

：全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
18	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100	94.8	92.3	81.9	83	82.3

(数値は肯定的な回答の割合)

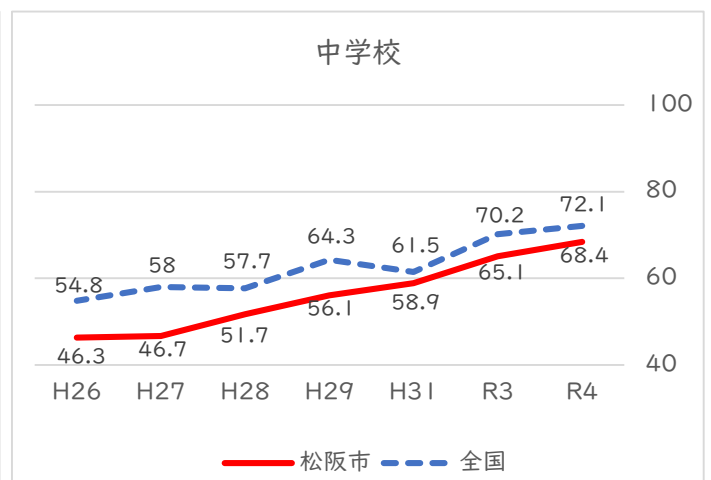
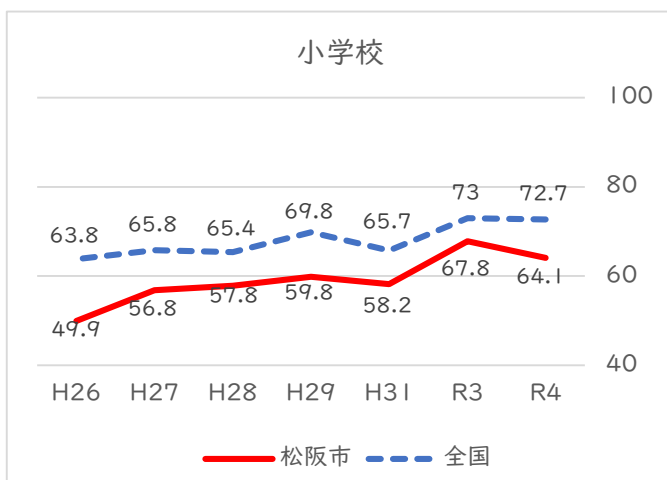
<経年変化>



◆児童生徒質問紙

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	64.1	64.5	72.7	68.4	64.5	72.1

<経年変化>



<学校質問紙>

：全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
17	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	88.9	95.1	94.2	100	95.5	93.3
32	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	80.5	85.9	82.6	81.9	81.7	80.4
小 73 中 71	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	94.4	87.5	82.0	72.8	85.0	79.7
小 74 中 72	保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか	100	96.7	94.6	81.9	73.2	77.5
小 75 中 73	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(小74)(中72)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	88.9	83.9	70.8	63.7	61.4	55.8
小 76 中 74	(小74)(中72)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	100	94.7	93.7	91.0	86.9	86.5

(数値は肯定的な回答の割合)

<分析結果を踏まえて>

学校質問紙の質問番号18に関する学校の取組状況について経年変化分析を行った結果、小学校においては肯定的に回答している学校の割合が高くなっている傾向が見られる。中学校においても、8割以上の学校が肯定的に回答している。また、児童生徒質問紙の質問番号45に関する取組状況について経年変化分析を行った結果、肯定的に回答している児童(生徒)の割合が高くなっている傾向が見られる。今後、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて検討し、指導計画を立てることにより、総合的な学習の時間における学習内容の充実につなげることが重要であると考えられる。

学校質問紙で取り上げた上記の質問に対する回答状況からは、地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして保護者や地域の人との協働による活動が充実していることがうかがえる。

令和6年度までにコミュニティ・スクールを拡充し、教育課程の趣旨や教育活動家庭や地域との共有を図る取組をさらに充実させ、学校・家庭・地域が協働し、児童生徒の義務教育9年間の学びを支える教育体制を地域全体で構築することが必要である。

5 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の取組

(1) 松阪市教育委員会の施策の充実

- 学力向上推進協議会の設置
 - ：「松阪市教育ビジョン」に示された「確かな学力」の向上を目指した教育の推進
- 「未来を切り拓く学力向上タスクフォース」の設置
 - ：分析結果を踏まえた改善方策の検討及び取組の推進
- 「未来を切り拓く力」育成モデル校区による取組の充実
 - ：中学校区の豊かな自然や歴史・文化、産業等の学びを介し、夢を育み未来を切り拓く力を、学校・家庭・地域が一体となって育む研究及び研究成果の還流
- 松阪市標準学力調査の活用
 - ：児童・生徒の課題を早い段階で把握し、課題解決に向けた授業改善や一人ひとりの子どもに応じたきめ細やかな指導を進めるための支援
- 読解力向上プロジェクト「(よむ YOMU ワークシート)」の活用
 - ：言語能力・情報活用能力・論理的思考力の育成に向けた研究及び研究成果の還流
- 授業力向上アドバイザーの派遣
 - ：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりへの支援
- 新たな学びの創造事業、GIGA_LAB 研修、松阪 GIGA 開拓プロジェクトの実施
 - ：GIGA スクール構想「松阪モデル」の構築
- いきいき学校プロジェクトの実施
 - ：すべての子どもたちが笑顔で過ごすための教育体制の構築
- コミュニティ・スクールの導入
 - ：地域とともにある学校づくりの推進

(2) 学校の実践の焦点化

- ①「主体的・対話的で深い学び」の創造
 - 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
 - ：学習と生活が結びつく課題や学習内容の工夫
 - ：児童生徒が学んだことを活用し、自分の考えを形成したり、新たなものを創造したりする学習活動の設定
 - ：PREP 法や三角ロジック、シンキングツール等を活用した「筋道を立てて説明する力」を育む授業づくり
 - ：よむ YOMU ワークシートを活用した言語能力・情報活用能力・論理的思考力を育む取組
 - ：ルーブリック(評価基準)の活用による指導と評価の一体化
 - GIGA スクール構想「松阪モデル」の構築
 - ：個に応じた補充学習や授業と連動した家庭学習
 - ：デジタルドリルの計画的な活用
 - ：多様な人々とともに学ぶことができる遠隔授業
 - すべての子どもたちが笑顔で過ごすための教育体制の構築
 - ：継続的なソーシャルスキルトレーニングによる協働的な学びの充実
 - 地域とともにある学校づくりの推進
 - ：地域や社会で起きている問題や出来事を学習の題材とした探究の過程を重視した授業づくり
- ②カリキュラム・マネジメントの確立
 - 児童生徒や学校、地域の実態を考慮した教科横断的な視点
 - ：各教科等の学習内容を横断的な視点で捉えた配列の工夫
 - ：学校全体における言語活動を意識した教育課程の工夫
 - ：教育課程の趣旨について家庭・地域と共有
 - PDCA サイクルの確立
 - ：各学校のめざす姿や資質・能力の育成につながる PDCA サイクルの確立
 - ：Q-U 及び hyper-QU の分析を基にした個や集団に応じた指導の PDCA サイクルの確立
 - ：コミュニティ・スクールによる学校運営等に関する PDCA サイクルの確立
 - 人的・物的な体制の確保
 - ：地域等の外部の資源を含めた、効果的な指導計画の作成・活用
 - ：コミュニティ・スクールの導入及び CS コーディネーターの設置

